

2024年03月26日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【「キャリートレード」について】

「円キャリートレード」とは、低金利の円を借りて、外貨に交換し、金利の高い外貨で運用して、その金利差を享受することです。

もともと円を保有しているならば、その円を売って外貨を買えばよいだけです。日本人にとっては、「外貨預金」と結果的には同じことです。

たとえば、トルコなどはとても金利が高い。

「円を借りてトルコリラで運用する」といった取引も「キャリートレード」です。

ただし、この場合は、なかなか上手く行くとは限りません。

このような、いわゆる新興国の通貨は、カントリーリスクが高いため、魅力的な金利だとしても、一般的なキャリートレードの対象にはなりにくいのです。

ポートフォリオのごく一部を、ハイリスク&ハイリターンを狙ってカントリーリスクの高い国に投資をすることは投資戦略としてあり得ますが、ポートフォリオの中心とするのは危険すぎると考えます。

+++++

一般論ですが、ドル/円が下落すると、その原因・要因を円キャリートレードのアンワイド(解消)と説明する場合があります。

それが誤りのケースもあります。

円キャリートレードとは、低金利の円資金を借り入れて、高金利の通貨を買い、金利差を教授するトレード・テクニック(売買手法)のことです。

対ドルでだけ「円キャリートレードのアンワイド(解消)」が行われて、対ユーロや、対ポンド、対AUD、対NZD、その他の通貨では、「円キャリートレードのアンワイド(解消)」が起こらない、というのは、理屈に合いません。

対ユーロの値動き、すなわち、ユーロ/円の値動きを見れば、そのドル/円下落の要因が、「円キャリートレードのアンワイド(解消)」であるのか、そうではないのかが明白になり

ます。

+++++

先に述べましたが、いわゆる新興国、例えば「トルコリラ」のようなエマージング国の高金利通貨は、金利が高いのにキャリートレードの対象にはならないのは、カントリーリスクが高いせいです。

ポートフォリオのごく一部を、つまり、その元本を失っても構わないほどの資金を、ハイリスク&ハイリターンを狙って、カントリーリスクの高い国に投資をすることは投資戦略としてありえますが、巨額の投資を、カントリーリスクの高い国に投資をすることは、自殺行為です。

だから、機関投資家は、小額のみの投資を行います。

過去に、機関投資家が、巨額の投資を、アジアのエマージング国に投資を行ったために、「アジア通貨危機」が起きました。

『過去の「アジア通貨危機」は、起こるべくして起きた』と、考えます。

私は、外国為替取引は、インカム・ゲイン（金利差）を狙うのではなく、キャピタル・ゲイン（為替差益）を狙うべきだと考えているので、エマージング国投資には賛成できません。

+++++

しかしながら、現状のマーケット（外国為替市場）のトレンドを考えると、今のところ、「円キャリートレードのアンワイド（解消）」は、まだ、起こっていない、と考えます。

ただし、今後、起こる可能性が高い、と考えます。

+++++

+++++

（2024年03月26日東京時間14:00記述）